

川南町の観光スポット

篠原みようと滝

向かって右側の勢いのよい流れが男滝、流れの緩やかな左側が女滝、白い二すじの清流が巨岩の上から流れ落ちる様は、豪壮と言う感ではなく、女性的風情の滝です。



川南湿原植物群落

78科283種もの植物が、3.1ヘクタールという県下の広さの湿原に自生する。昭和49年に国の天然記念物に指定された。川南の台地をくぐった水が地表に届き、一帯を湿らせている。春から夏にかけて可憐な花が咲く。



落下傘部隊記念碑

太平洋戦争に突入した昭和16年、南方戦線での奇襲作戦に備えて空挺落下傘部隊が川南の唐瀬原地区に創設された。「空の神兵」と讃えられた将兵の降下猛練習が毎日この唐瀬原で行われ、川南村は一瞬の間に軍都と化したのである。給水塔は当時の名残をとどめている。



宗麟原供養塔

天正6年11月島津氏と大友氏の壮絶な戦いが高城川を挟み行われた。西の関ヶ原といわれた九州を二分する合戦である。両軍の戦死者の数は2万人といわれる。この戦いに勝利した島津義久は高城主山田新助有信に敵味方の区別なく手厚く葬るよう命じた。



山田新助有信は大旋餓鬼のとき豊後塚に六地藏塔建立を計画し翌年2月建立。これが後に、土地の人々が呼んでいる「宗麟原供養塔」である。11月に宗麟原供養塔秋季例祭が行われている。

天龍梅

高岡の月知梅、新田の座論梅と並び県下三梅と称せられている樹齢数百年の老梅。明治34年頃、当時西の別府地区にあったこの梅の下から舟底型の張石棺を発見し、その中から勾玉、管玉、金環、銀環、土器その他30余点を発掘されたことから、この梅が塚の神饌木として植えられたものと考えられている。大きな台風で梅の枝は裂けたり倒れたりしたが、その倒梅が根を出し枝を伸ばして四方に栄えはじめた。その姿が天に昇る龍のように見えることから、大正6年天龍梅と命名された。昭和32年2月にこの天龍梅を保護する目的から、西の別府から現在の中央公園に移植された。

